

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスみらい学園		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心理支援体制の充実 当事業所には心理指導担当職員が常勤しており、利用者一人ひとりに対する個別面談やカウンセリングを実施しています。精神面でのきめ細やかなサポートを提供しており、思春期の不安定な時期にある利用者に対して、安心感を与えることができる点は非常に大きな強みです。	心理面でのサポート強化 精神面のサポートに関しても、個別カウンセリングだけでなく、三者面談なども実施することで、利用者や保護者の不安を解消し、心のケアを充実させています。心理指導担当職員の存在が利用者にとって非常に心強い支えとなっており、安心してサービスを利用できる環境を提供しています。	心理的支援の多層化 精神的サポートをより強化するために、個別のカウンセリングに加え、グループセッションやストレスマネジメントのワークショップを開催することで、心理的支援の幅を広げていきたいと考えています。また、利用者のニーズに合わせた心のケアを一層深め、心理的な安定を得られる環境作りを強化します。
2	高校卒業資格取得のための学習支援と進路支援の充実 通信制高校の学習センターを併設しており、利用者が高校の単位取得を目指しながら、同時に卒業後の進路決定を支援することができます。三者面談で進路を確定し、進学先の受験のサポートや、進路選択に悩む利用者にとって大きな支援となっています。	別対応と進路に合わせた支援 高校生を中心に個別の進路相談や学習支援を行う際に、利用者一人ひとりの進路希望や学習状況に合わせた支援を意識的に行っています。例えば、進学希望者には進学先の情報提供や出願サポートを、就労希望者には具体的な就職活動支援を行うなど、個別対応に重点を置いています。	より多様な進路支援の強化 現在、進学・就職に向けた支援は行っていますが、さらに幅広い進路選択肢(ボランティア活動等)を提供することで、より多様な進路希望に対応できる体制を整えていきたいと考えています。進学や就労以外の選択肢についても利用者に情報提供し、幅広い選択肢を検討できるようにすることが目標です。
3	福祉就労支援の多角的なサポート 卒業後、就労を目指す利用者に対しても、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所を紹介しており、福祉的就労を目指す利用者に対して必要な支援を多角的に行っています。施設見学の同行など実践的な支援を行うことで、就労の現場に必要な理解を深めています。また、資格取得支援(例:子育て支援員等)やパソコンスキルのトレーニングも行って、利用者のスキル向上を助ける体制が整っています。	スキル向上のための実践的トレーニング 就労を目指す利用者に対しては、パソコンスキルや資格取得のためのトレーニングを積極的に行っています。これにより、卒業後に必要となる実務能力を身につけさせることができ、就職の際にも自信を持って臨むことができるようサポートしています。	職場体験の強化 就労支援をより充実させるために、実際の職場での体験機会を増やすことが必要です。施設見学やインターンシップの機会をさらに拡充させ、実務経験を通じて、利用者が自分に合った職業を見つけやすくするサポートを強化します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の心理面のサポートが不足 利用者への精神面での支援が充実している一方で、保護者への心理的サポートが不足していると思います。電話やLINE、日々の記録のやりとりでは相談を可能としておりますが、定期的な保護者同士でも悩みを語り合う保護者会などは実施しておらず、改善が求められます。	日々の生徒の対応に時間をとられ、保護者に手厚いサポートができていない現状があります。	保護者会の実施 今年度は保護者会や、保護者が高校卒業後の進路について早い段階で考えられるような進学ガイダンスや高等教育へ進学後の奨学金や内部進学制度などの説明会、保護者同士が悩みなどを語り合える保護者座談会などを実施していく予定です。
2	スキル向上の支援が個別化されていない パソコンスキルや資格取得支援などのトレーニングは実施していますが、利用者のスキルレベルや希望に応じた個別化が不十分な場合があります。一人ひとりの学習ペースや得意分野に応じたより細かい支援が不足していると感じることもあります。これにより、特定のスキルを必要とする利用者に対して、もう少し個別に対応したトレーニングを強化する必要があります。	支援方法の個別化不足 スキル向上や資格取得支援は、標準化された内容で提供されることが多いため、利用者それぞれのペースやニーズに応じた柔軟な支援が足りていないことがあります。利用者が抱える課題や背景に応じて、さらに柔軟な対応をするための工夫が求められます。	個別化されたスキル支援 各利用者のスキルレベルやニーズに合わせたカスタマイズ支援が必要です。例えば、基礎的なパソコンスキルを学ぶ利用者にはより丁寧で段階的なサポートを行い、高度なスキルを求める利用者には個別のアドバイスや実践的な学習機会を提供することで、各々が必要とする支援を的確に提供できます。
3			